

鹿児島大学共同獣医学部 教授 大和 修

平成30年2月27日-3月1日(主要開催日2月28日)の日程で、ガジャマダ大学(Gadjah Mada University, Jogjakarta, Indonesia)にて実施された獣医学国際シンポジウムに参加したので、下記にその概要について報告する。なお、本シンポジウムは2017年2月にボゴール農科大学で第1回目が開催されて、今回は第2回目の開催となる。今回、日本から山口大学連合獣医学研究科(山口大学、鹿児島大学および鳥取大学)であり、インドネシアの獣医系大学(全11校: Gadjah Mada, Bogor Agricultural, Syah Kuala, Airlangga, Udayana, Hasanuddin, Nusa Cendana, Brawijaya, Wijaya Kusuma, Nusa Tenggara Barat および Padjajaran Universities)が参加した。今回初めて韓国から National Seoul 大学が参加する予定であったが急遽欠席となった。全14大学から、多くの教員、学生およびスタッフが参加した。今回のシンポジウム参加者は約180名であった。鹿児島大学からの参加者は、教員として私(大和修)の他、田仲哲也教授および3名の大学院生(2名は田仲教授が指導教員、1名は窪田力教授が指導教員)であった。

シンポジウム前日の2月27日には、昼食会(CUPU WATU RESTO)およびウエルカムディナー(Abhayagiri Restaurant)が開催されて、インドネシアおよび日本双方からの多数の参加者(教員および学生)との研究・教育交流(情報交換)が行われた。

シンポジウム(2月28日)、は、インドネシア国歌斉唱および開会宣言により始まり、ガジャマダ大学獣医学部長(Prof. Siti Isrina Oktavia Salasia)および山口大学三浦房紀副学部長による挨拶(スピーチ)の後、山口大学(佐藤宏研究科長、佐藤晃一次期学部長)、鹿児島大学(大和修教授)、鳥取大学(割田克彦准教授)により、日本からの3大学について説明が実施された。その後、インドネシア獣医学大学協会(Indonesian FVM Association)の長であるボゴール農科大学のProf. Yoniiにより、インドネシア全11大学の概要が紹介された後、11大学代表者により各大学の紹介が順次なされた。すべての説明が終了して、質疑応答がなされたが、会場からの日本の大学への質問は、獣医学教育過程および博士課程を修了する年数、魚類の研究の有無および日本の大学院に進むための金銭的な手段についてであった。昼食後に、ポスターセッションおよび口頭発表セッション(4箇所分散)が実施された。

ポスターおよび口頭発表セッションが終わった後、希望者に対してのみ動物病院ツアーが実施された。動物病院は、昨年新築された建物であった。最初に会議室にて、パワーポイントスライドが使われて、動物病院の概要について説明があった。その後、エントランス(受付)、臨床病理検査室、手術室、診療室、レントゲン室、洗浄室、診察室、等が紹介された。

27日の18時過ぎからガジャマダ大学で夕食会(フェアウエルパーティー)が開催され、学生による合唱、演劇舞踊、バンド演奏による歌などが披露される中、情報交換が実施された。

最終日の3月1日には、仏教寺院(Borobudur temple)見学して、昼食(The Waroeng of Raminten Restaurant)をとり、土産物屋(Mirota Batik Souvenirs)で買い物をして、空港に向かった。



夕食会（シンポジウム前日）



シンポジウム会場



コーヒーブレイク（談話）



代表者（感謝状授与）



ポスター会場



口頭発表



動物病院ツアー



夕食会